

安全に、活発に、創造的に。 新研究棟のための 3つのコンセプトワード。



新研究棟整備の経緯

老朽化した研究施設にかわる新研究棟整備の必要性は、以前から検討されてきました。そして最適立地である福山工場用地を取得。その時から、具体的検討がはじまりました。

2008年春に社内で方向性を策定し、2009年4月に整備パートナーとなる建築ゼネコンを選定。何度も設計・調整

を繰り返し、その年の10月に着工。2010年5月に竣工し、6月1日に移転し、本格的稼働をスタートしました。準備や構想に時間を費やした分、決断からハイスピードで稼働させることに成功しました。



コンセプト 1 「安全」へのこだわり

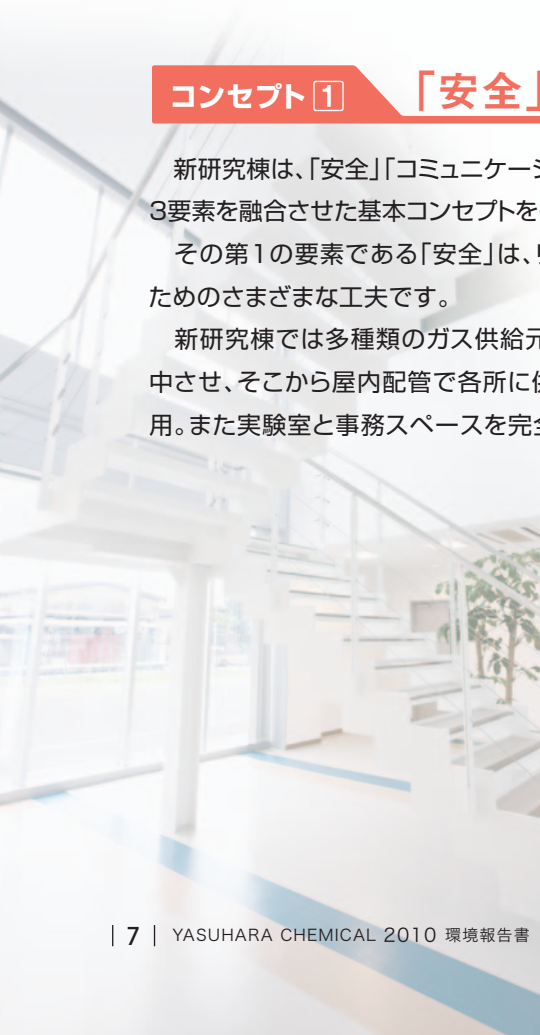
新研究棟は、「安全」「コミュニケーション」「創造性」という3要素を融合させた基本コンセプトをもとに整備しました。

その第1の要素である「安全」は、リスクを最小限に防ぐためのさまざまな工夫です。

新研究棟では多種類のガス供給元を屋内の一カ所に集中させ、そこから屋内配管で各所に供給するシステムを採用。また実験室と事務スペースを完全に分離することも

もちろん、フード付きの実験テーブルを多数用意したり、実験室内の気流を制御するなど、細かな工夫を多数採用し安全性向上をはかってます。

こうした設計が可能になったのは、建築設計の早い段階から、空調設備や実験設備の専門企業と一体となって設計を進めたからです。



スタッフが行き交うフレッシュスペース



開放感あふれるエントランス

コンセプト 2 「コミュニケーション」の活性化

研究開発活動において、コミュニケーション活性化は重要な要素の一つです。

新研究棟では、研究員の「ホーム」である事務スペースをワンフロア化し、全員を見渡せる構造にしました。またグループ毎にいつでも打合せや確認ができるよう、机を配置しました。

事務スペースと実験や分析などの部屋を離すことも、コミュニケーション活性化が狙いで、動線をあえて長くすることで、研究員同士の出会いや触発を促しています。

そして休憩のためのリフレッシュスペースや喫煙室も、コミュニケーションの場として、有効に機能しています。

コンセプト 3 「創造性」へのインスパイア

研究開発とは、新しい価値を生み出す作業です。研究員の創造性を高めることも、新研究棟の役割と考えます。

美しい建築デザインは、創造性を刺激する「器」そのものです。開放感あふれるエントランス部分は、社外や別部門のスタッフとのコンタクトスペース。白と自然素材を基調にしたインテリアが、高感度な室内環境を演出しています。

1階と2階をつなぐ階段は吹き抜けで、壁面ガラスをとおして屋外の景観を眺められる構造になっています。

研究室内も開放感あふれるフロア構成の中央に、吹き抜けの階段を設置し、フロア間をつないでいます。

こうした洗練された空間デザインが、研究活動の緊張感を癒し、新たな創造力を刺激しています。

★ 入社一年目の研究スタッフ VOICE

仕事を通じて社会に役立てることが、研究活動の魅力

大学では寒天を酵素で分解して得られる健康物質について研究していました。就職に際しても社会に役立つ仕事をしたいと思い、環境など



多様な分野へ製品を提供しているヤスハラケミカルに興味を持ち入社しました。新研究棟は明るく、先輩研究員も和やかで親切です。将来は医療やバイオに関するテーマに取り組みたいと考えています。

久保 元

〈2010年4月入社〉

既成概念にとらわれず、新しい可能性を拓く研究者に

博士課程では金属触媒による合成や反応が研究テーマで、白金等のレアメタルのかわりに安価な鉄で新しい可能性を拓く研究していました。そうした経験から、天然



由来の原料で新しい可能性を拓くヤスハラケミカル企業理念に共感し入社しました。新研究棟は設備や環境が整っており、やりがいを感じます。新製品開発だけでなく、既存商品の高付加価値化にも挑戦したいと思っています。

橋本 拓也

〈2010年4月入社〉